

－三年目の苦悩－

仕事の指示も、報告も、基本は電子メールです。💻

時々そのメールの中に会議日程が入ってきます。その通知があった場合は、指定された時間に指定された会議室に行き、会議を行います。そこでやっと会話(打ち合わせ)が始まります。🗣️

とても便利な電子メールですが、人とのコミュニケーションが希薄になってしまうおそれがあります。最近ではコミュニケーション能力が低下しているといわれています。それは直接顔を見てコミュニケーションをとらなくても済む時代になってしまったからでしょう。

電子メール、それはパソコンで文字を打ち、漢字に変換する。漢字の能力もどんどん落ちていっています。漢字がわからなくてもパソコンや携帯電話が勝手に変換してくれるからです。

タイプミスを考えても、おかしいと思うようなメールが蔓延しています。変
明らかにタイプミスだな、と分かるものはいいんです。
でも、果たしてこれは・・・と悩んでしまう場合も多々あるんです。🤔
それが上司からのメールだとなかなか質問し辛い物です。
かといって、そのまま曖昧にしておくと、
「指示通りにやっていないじゃないか！」
と怒られるのです。🗣️
どうしたものか・・・

コミュニケーション能力の低下、漢字の能力の低下。
その結果、話が何も伝わらなくなってしまいます。
これは特殊な例ではなく、あらゆる所で起きていることではないでしょうか。

中にはコミュニケーションをとることが苦手な人もいます。
電子メールのおかげで逆にコミュニケーションがとりやすくなったという人もいます。
しかし、電子メールでのコミュニケーションは正しい日本語を使うことができるということが大前提です。直接顔を見てとるコミュニケーションであれば多少言葉が違ってても表情で確認したり、直接問いただしてみることもできます。
しかし、電子メールは無機質な物です。直接のコミュニケーション以上に気を遣わねばなりません。

ここで面白い体験を紹介します。
会社での打ち合わせ中に起きたやりとりです。
相手は人事部長です。(笑)

部長:とりあえず、時間もないし、この方法で進めておくしかないな。
ふな:そんな姑息な手段ではだめですよ。もう少し検討しましょうよ。
部長:誰が卑怯だって!?(怒)

皆さんは

「姑息(こそく)」

の正しい意味をご存じですか？

正しい意味は、

一時のがれ、その場しのぎ

ですよ。卑怯なんて意味はないですよ。

この後どうなったかって？

私は部長に、辞書で姑息の意味を調べてください、といって会議室を出ました。

あきれかえってそれ以上の言葉がありませんでした。

この話は年配の方とのやりとりですが、次はこの頃の大卒新入社員の話です。

私と何歳も離れていない💡のに、文化が全く違いました。

学生の頃からパソコン💻、携帯電話📱などにかこまれた環境だったのですね。

私が学生の時はポケベルでした。

しかも数字しか表示しないポケベル。

今の高校生は当然ですがポケベルを知らないんですよ。👤

ポケベルを知っている方、数字会話をしましたよね。(笑)

なにしてる？→724106

おはよう→084-

今行く→1019

なんてありましたよね。結局なんて書いたのか分からなくて電話かけて聞いたり。(笑)

そんな時代は終わったんです YO！

今や携帯です YO！

ポケベルが～鳴らなくて～🔔

なんて歌もありましたね～

歌詞はその時代時代のはやりものを取り入れることが多いので、年代毎に歌を聴くとその時代がどんな時代だったか結構分かります。

閑話休題、話を戻して・・・

パソコン💻、携帯電話📱に囲まれて育った彼らにおいては、一層ひどいものでした。

タイプミスを始め、手書きの書類等も誤字脱字のオンパレードでした。🙄

あまりにもひどかったので、ある時、上司に提案してみました。

「会社で国語教育をやってはどうか」

と。

上司は即答でした。

「会社は製品を開発して世の中に貢献する、そして利益を上げる、これがすべてだ。国語教育をする場ではない。」

と。

言われてみればもっともだな・・・と思いつつ、悔しかったですね。🍷

ものすごく悔しかったですよ。

決して間違っただけを言っているとは思わないのに、ダイレクトに否定されたわけですから。

なるほど会社とはそういうものか、ここで無駄あがきをしても仕方ないな、と思いました。

ではどうするか・・・

会社に入る前、みんなが国語教育を受ける最後の砦、高校の国語の教員になってやる！

とってしまったのです。単純すぎますね。(笑)

しかし、私は理系の出身、しかも理系の教員免許さえ持っていない。

無理か・・・と思いつつも、なぜか諦めきれなかったんです。

「自分のやりたいこととできること」

またこの言葉が出てきました。

できる！

なぜそう思ったのか今となっては闇の中ですが、絶対にできると確信したのです。